

協 社 福 祉 教 育

令和3年度報告

社会福祉法人
門真市社会福祉協議会

みんなのふくしを考えよう

ふだんの

くらしの

しあわせ

門真市社会福祉協議会について



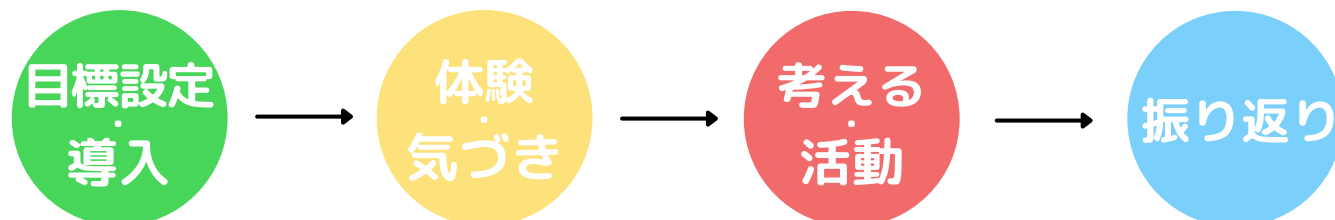
社会福祉協議会(通称：社協)は、民間の社会福祉活動を推進することを目的とした営利を目的としない民間組織です。

門真市社協では、「心ふれあう福祉のまちづくり」を目指して、地域で暮らす皆様のほか、様々な福祉関係機関の参加・協力のもと、様々な地域活動をおこなっています。

社協の福祉教育

社協では地域住民が互いに地域で支えあう担い手を育成するために福祉教育に取り組んでいます。福祉(ふくし)をより身近なもの「ふだんのくらしのしあわせ」として考え、子どもから高齢者まで幅広い世代の方を対象に取り組んでいます。

福祉教育 学習の流れ(プロセス)



門真市社協では、学びの流れ(プロセス)を意識したプログラムを展開し、体験学習だけでなく地域貢献活動(サービスラーニング)にも力を入れています。

学習テーマや内容に応じたプログラムの企画を行います。
先生方と共に作り上げていくことが理想の形です。

福祉の学習や活動を通して豊かな人材の育成やクラスづくりを目指しましょう。



福祉教育プログラム

本会で取り組む、主なプログラムです。学年に応じて、内容や取り組みを企画させていただきます。

学習テーマ	プログラム例
高齢者	疑似体験、認知症理解、交流
視覚障がい	当事者の講話、点字体験、アイマスク体験
聴覚障がい	当事者の講話、手話体験
発達障がい	ワークショップ
肢体不自由（車いす）	当事者の講話、車いす体験
障がい者スポーツ	ボッチャ、サウンドテーブルテニス(STT)
バリアフリー・ユニバーサルデザイン	講義（他のプログラムと組み合わせも可能）
ふくしとわたし	講義（導入授業にオススメ）
防災福祉教育 企画中	ワークショップ、講義、街歩き



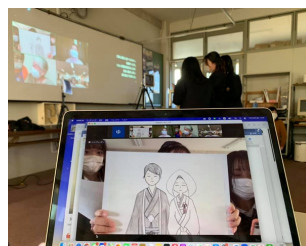
▲ボランティアさんが点字の指導を行います。



▲視覚障がい者によるリングの皮むきを披露しました。



▲ボッチャは誰でも参加ができるので、学校や地域から人気のスポーツです。



▲オンラインツールを活用して、高齢者との交流を行いました。（人生紙芝居）



▲社協職員が『ふくし』について考えるワークを行います。

令和3年度 福祉教育実施校（順不同）

学 校 名	学 年	学 習 内 容
速見小学校	1 年	『ふくしとわたし』『視覚障がい』講話（道徳）
砂子小学校	2 年	『ボッチャ体験』（多文化共生学習）
門真みらい小学校	3 年※	『ふくしとわたし』『聴覚障がい』講話+手話体験（総合）
	4 年	『視覚障がい』事前学習+講話+点字体験（総合）
	5 年	『視覚障がい』講話+点字体験+点字でお手紙作成（総合）
	6 年※	『ふくしとわたし』『発達障がい』ワークショップ（総合）
脇田小学校	3 年	『ふくしとわたし』『視覚障がい』講話+点字体験（総合）
	4 年	『聴覚障がい』事前学習+講話+手話体験（総合）
上野口小学校	3 年	『ふくしとわたし』『視覚障がい』講話+点字体験（総合）
第七中学校	2 年	『ボッチャ体験』『聴覚障がい』講話+手話体験（総合）
門真なみはや高校	2 年※	『オンライン施設ツアー』『高齢者にインタビュー』『人生紙芝居の作成』『お披露目会』（福祉フィールド）

※はオンライン授業またはオンラインツールを活かして取り組みました。

協力団体の紹介(順不同)

福祉教育の実施にあたり、社協だけではなく門真市内当事者団体をはじめとする多様な団体や方々にご協力いただいています。

団体名	団体概要
門真市身体障害者福祉会 ろうあ部会	聴覚障がいのある方の当事者団体です。聴覚障がいのある方の暮らしやすいまちづくりのために活動されています。
視覚障がいのある方々	門真市内で暮らす視覚障がいのある方々です。スポーツやテーブルゲームなど当事者同士が集まり過ごされています。
手話サークル くすの木	門真市内で活動するボランティアグループです。手話の学習や通訳など、ろうあ部会と共に幅広い活動をされています。
手話グループ ひまわり	門真市内で活動するボランティアグループです。手話の学習会やイベントでの手話通訳などの活動をされています。
点訳サークル さつき	門真市内で活動するボランティアグループです。本や読み物を点字に訳す点訳活動をされています。
NPO法人 門真市手をつなぐ育成会	「知的障がい・発達障がい児者」の保護者や関係機関の方で組織された団体です。会員相互の親睦や本人の活動を支援する他、障がい理解・啓発事業・児童通所支援・Hugくみ相談などの活動をされています。
ゆめ伴プロジェクト in 門真実行委員会	福祉関係やNPOなど多様な団体が協働し活動する団体です。認知症の方や高齢者が地域で活躍できる場を創造することを目的に、高齢者が集うサロンやファームなどを開催しています。

先生方からの声 (実施後のアンケートよりコメント抜粋)

福祉教育に関わった先生方からプログラム内容に関することや子どもたちの様子などについてご意見や感想をアンケートにて回答いただきました。一部のみですがご紹介いたします。



教科学習では、ふれられていない（学習しない）内容の学習ができてよかった。当事者の方にお会いできてよかった。

(小学1年生 担任)



今回はコロナによる学級閉鎖が続き、1日限りのものだったため、大きな変化は見られなかった。しかし手話への関心は高まったと思う。

(小学4年生 担任)



動画での生活の様子を紹介のとき、予想以上のことが一人で、できていたり少しの工夫で、できるような様子を見ることができてとても良い反応を示していました。

(小学3年生 担任)



当事者の方を目の前にすることで親しみが持てた。当事者の方と社協の職員さんが和やかに話されている様子も双方向な関係性が見えて良かったです。

(支援教育コーディネーター)

新たな取り組み

令和3年度に取り組んだ新たなプログラムをご紹介します。パラリンピックでも注目の競技『ボッチャ』をきっかけに障がい理解学習につながった学習プログラムです。

基本情報

学 校 名 : 第七中学校 2年生 3クラス
科 目 : 総合 時間数 : 2時間 (延べ)
学習目標 : 障がい者スポーツを通じた障がい理解学習
プログラム : ボッチャ体験、聴覚障がい (講話+手話)

協力団体

ろうあ部会(当事者団体)
手話サークルくすの木
手話グループひまわり

取り組み内容

●ボッチャ体験 (場所: 体育館)

狙い: パラスポーツから障がい者への関心を高める。
競技の成り立ちから、心のバリアフリー・ユニバーサルデザインを学び考える。

内容: ①ボッチャの概要及びルール説明 (パワーポイント)
②ボッチャ体験 (3人1チーム)
③ボッチャスーパープレー動画の視聴
④心のバリアフリー・ユニバーサルデザインについて
⑤まとめ、次回の学習について

⇒下校前にリフレクションシートを使って振り返りを行う。



●聴覚障がいについて学ぶ (場所: 各教室)

狙い: 実際に障がいのある方と関わる機会を創出し、より身近に福祉や障がいを感じてもらう。
学習を通じて自分たちに何ができるのかを考える。

内容:

- ①自己紹介・・・当事者2名+手話通訳のボランティア
- ②質問コーナー…事前に考えた質問をもとに質疑応答。
- ③手話体験・・・日頃よく使う挨拶の手話、若者言葉のほか、その場でリクエストのあった言葉の手話を覚えた。
- ④まとめ・・・当事者2名からのメッセージ、TikTokの手話歌も紹介。

⇒下校前にリフレクションシートを使って振り返りを行う。



学習中や学習を終えての様子や反応

- ・ボッチャ体験中はチームで作戦を立てながら楽しむ様子があった。体験後の動画を視聴した際には選手のスーパープレーに、驚きの声や表情が伺えた。
- ・聴覚障がいの学習では、授業中は中々手が上がらないこともあったが、授業終わりの休み時間では大勢の生徒が、「手話を教えてください」と積極的に当事者と関わる姿を目にすることができた。
- ・学習後のリフレクションシートにも、心のバリアフリーや思いやりの大切さ、手話の必要性を感じたなどというコメントが多くあった。中には、笑顔で過ごされる当事者の姿をみて、障がいのある人も自分たちと同じように幸せに暮らしているということを感じたというコメントもあった。
- ・関わった先生からは、福祉教育の大切さを改めて感じる事ができたという感想や、「障がい」についてどこまで理解が深まったか分からないというご意見をいただいた。

担当者よりコメント

聴覚障がいの学習では、関わり方や伝え方など相手の目線になって考えることが自然と生まれており、当日の様子やリフレクションシートからも感じられました。今回は限られた時間での実施でしたので、これを機に継続して福祉教育に取り組み、さらなる障がい理解につなげていきたいと思っております。

福祉教育の担当者からメッセージ



こまつともなり
小松 智誠

昨年度は、福祉教育へのご協力ありがとうございました。
この1年を振り返るとコロナ禍で不安定な状況下でしたが、新たなプログラムの企画やオンライン授業など良い意味でチャレンジの多い1年でした。
今年度もさっそく「年間を通じて福祉教育に来てほしい!」とご依頼をいただき、どのような取り組みができるのか、早くも胸を躍らせています。

福祉教育でこれから出会う先生方へ……

福祉教育のテーマや切り口には様々なものがあると思います。福祉といえば、『障がい』や『介護』をイメージされる方もいらっしゃると思いますが、実のところ福祉とは暮らしに関わるものすべてが福祉だといえます。最近よく耳にする『SDGs』もその一つです。福祉とSDGsは重なり合う部分が多いので、ぜひお話だけでもさせていただければと思います。ご依頼お待ちしております。



福祉教育



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない (leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。(引用: 外務省HP JAPAN SDGs Action Platform より)

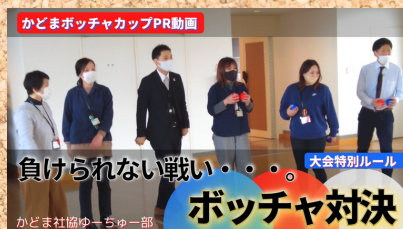
かどま社協だより mini

NEWS ①

門真市社協の



かどま社協ゆーちゅ一部



Youtubeは
コチラ▼



NEWS ②

門真市社協ボランティアセンターの

LINE 公式アカウント

始めました



＼友だち募集中／
追加はコチラから



ID検索でも登録可能

@216iabtx

大好評

友だち追加

140人

突破!!

みなさん!!
社協の場所ご存じですか～?

社協ココですよ～!
保健福祉センターの1階です。





FAX 06-6904-1456
門真市社会福祉協議会 福祉教育 担当者 あて

【福祉教育依頼書】

令和 年 月 日

★本紙はコピーしてお使いください。

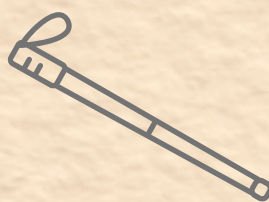
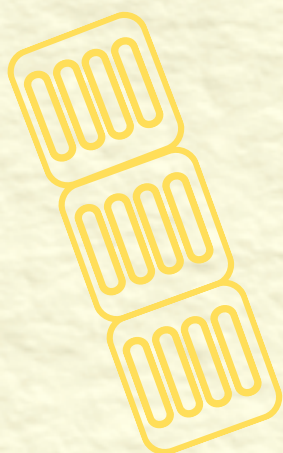
記入者：_____

学校名	
担当者氏名	
電話番号	
学 年	(例)4年生
生徒人数 クラス数	(例)1組30名、2組32名
依頼内容	(例) 点字体験や当事者のお話を聞いて、視覚障がいについて理解を深めたい 等
実施予定時期 (おおよそ)	

- ご依頼は本紙を記入の上FAXにて申込をお願い致します。
- 依頼書が届き次第、担当者からご連絡させていただきます。
- 申込は実施の1～2か月前ごろのタイミングでお願いします。（早めはOKです）
実施にあたり、打合せ、準備が必要です。
- 備品の貸出も行っております。
(貸出物一覧)

【貸出物】	点字版	アイマスク	車いす	ボッチャ	高齢者疑似体験 セット
【数】	35台	38個	要相談 在庫次第	7セット	10セット

- 新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の上、実施致します。
- オンラインでの開催も可能です。
- 申込や福祉教育に関するお問い合わせ（平日9：00～17：30）
福祉教育 担当者まで 06-6902-6453にご連絡ください。
※不在や他業務対応中の場合は折り返しご連絡させていただきます。



令和3年度 福祉教育活動報告

社会福祉法人 門真市社会福祉協議会
〒571-0064 門真市御堂町14-1 保健福祉センター内
TEL : 06-6902-6453 FAX : 06-6904-1456



本事業は、赤い羽根共同募金より助成を受け実施しております。
皆様のご協力ありがとうございます。